

いの流水俳壇

間 浩太選

「当季雑詠」

山を出て山に入る陽や雪しまく

片岡 包女

〔評〕風のことを古語で「し」といい「まく」と重ねて風の烈しく吹きまくることになる。「雪しまく」とは、雪まじりの強い風をいう。この句は、峡の冬の景、作者の住所あたりの情景が目に見えられます。例句に

雪しまき港の景をうばいけり

五十嵐盤水がある。

菜園に春が音立て土起こす

中野 好子

〔評〕春が音立て土起こす、は面白い表現だと思えます。春になると、植物は芽を出し、根は水を吸い成長を始め、土中の動物は活動を始めるのを、土起こすと見たのでしょうか。万物の生成・発育する春を、上手に詠んでいます。

一番始めに出来た句は、たまには、良

い句もありますが、みんなが考える事だからそこから、常識を突き抜けたものに、せよと言われています。

人違い詫びてマスクの目が笑う

川村 博子

〔評〕よくあることで、体験された方も多いと思いますが、挨拶をしたものの人違いと、気がつき、すみませんと、謝ったところ、笑顔が返って来たと言うことで、マスクの目が笑うと詠んだところが、良く、読者に共感されるところで、よくわかる句です。

日の当たるところって幸せを与える

秋田 律子

〔評〕作者は詩人で、詩集も数冊・世にあり、高知新聞詩壇でも毎週「佳作」として名が掲載され、度々優秀作品として掲載されています。

律子さんの、句は伝統俳句系ではなく

現代俳句系にちかく、それよりも、もっと新しい感覚であり、無季・破調の句も度々拝見します。この句も、季語はありませんが、冬の季感があります。破調の句に見えますが、十七文字になっています。然し、結社内では、どんな句でも構

いませんが、広報の場合は、有季・定形のわかり易い句が、良いと思います。現代俳句系の結社には、水月さんと、浩太が参加していますが、私はなるべく伝統系の句を、当俳壇には提出しています。

ほろ苦き老いの思い出露の臺 刈谷 志津

日脚伸ぶ遊ぶ子供の声弾む 森岡 照月

躓いて二月の風を野に拾う 岡本とも子

豆撒くや心の鬼も老いて来し 竹崎 光子

老妻の守れる城や寒厨 大川 節弥

この風は憂し花粉飛び黄砂呼び 津田 久美

大根干す午後の日集むトタン屋根 井上 郁子

徒に流るる月日春炬燵 松尾満津於

唐辛子軒に冬越す影の列 友草 水月

誤字ひとつありて親しき賀状かな 間 信子

合格の孫は梅の香まとい来る 筒井 文

白梅や二輪のぞけし窓あかり 弘瀬うき子

光りあふ畦と小石と根白草 伊藤 たみ

黄砂来る砂と化したる遺骨つれ 間 浩太

次 題 「当季雑詠」

締め切り 毎月第2月曜日

投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

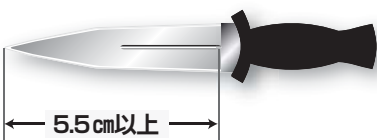
867-2133



平成21年1月5日 法律施行

銃刀法改正

刃渡り5.5cm以上の剣が所持禁止



剣とはどのようなものですか？

ダガーナイフなど左図のような両側に刃が付いた刃物です。

法律が施行された時点ですでに所持している刃渡り5.5cm以上の剣は？

平成21年7月4日までに処分等してください。

(同日までに処分等すれば、罪に問われません。)

具体的な処分方法は？

警察に処分を依頼するか、又は輸出業者や廃棄業者に輸出や廃棄を依頼してください。

平成21年1月5日以降に刃渡り5.5cm以上の剣を手に入れたら？

不法所持になり、罪に問われることになります。

(3年以下の懲役又は50万円以下の罰金)

警察庁ホームページ

<http://www.npa.go.jp/> 警察庁